

Japanese Utility Model Application Laid-Open No. 60-68034

Publication Date: May 14, 1985

Application No.: 58-159841

Application Date: October 14, 1983

TITLE: SELF-STANDING PACKING BAG

Applicant: SHOU EI SEITAI CO., LTD.

Translation of page 361, from 2nd line to 20th line.

1. TITLE OF DEVICE

SELF-STANDING PACKING BAG

2. CLAIMS FOR UTILITY MODEL REGISTRATION

A self-standing packing bag 16, in which one piece a of a bag main body 1 is made of a synthetic resin film and another piece b is made of a sheet material which is thicker than the film, and either one or both of the one piece a and the other piece b are extended to form a gasket portion 8 at a bottom portion 9 of the bag main body 1, and both pieces a, b are thermally welded, wherein an opening portion 3 is provided at an upper end of the bag main body 1, and a reinforcing piece 4 made of a sheet material which is thicker than the film is provided at least on one side a' just below the opening portion 3 so that it faces another piece b' just below the opening portion 3, a seal piece 5 is formed by extending the one piece a further than the other piece b from the opening portion 3 of the bag main body 1, the seal piece 5 is folded toward the side lower than the opening portion 3 to form a gasket portion 6, and an upper end 5a of the seal piece 5 is formed at a portion higher than the opening portion 3 so that it can be exposed.

# 公開実用 昭和 60— 68034

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-68034

⑭ Int. Cl.<sup>4</sup>

B 65 D 30/16  
33/14

識別記号

庁内整理番号

7234-3E  
7234-3E

⑬ 公開 昭和60年(1985)5月14日

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 自立式包装袋

⑯ 実 願 昭58-159841

⑰ 出 願 昭58(1983)10月14日

⑱ 考 案 者 芝 原 憲 司

大阪市西成区南津守4-1-12 照栄製袋株式会社内

⑲ 出 願 人 照栄製袋株式会社

大阪市西成区南津守4-1-12

⑳ 代 理 人 弁理士 藤 本 昇

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

#### 自立式包装袋

### 2. 実用新案登録請求の範囲

袋本体 1 の一片 a を合成樹脂製フィルムで構成するとともに他片 b を該フィルムより厚手のシート材によって構成し、且つ該一片 a 又は他片 b のいずれか一方或いは両方を延長して袋本体 1 の底部 9 にガゼット部 8 を形成するとともに両片 a, b を熱溶着してなる自立式包装袋 16 において、前記袋本体 1 の上端に開口部 3 を設けるとともに、少なくとも該開口部 3 直下の一片 a' に該開口部 3 直下の他片 b' と対面するよう前記フィルムより厚手のシート材からなる補強片 4 を設け、且つ前記一片 a を袋本体 1 の開口部 3 から他片 b より延長せしめて封緘片 5 を形成し、しかも該封緘片 5 を開口部 3 より下側に折込んでガゼット部 6 を形成するとともに該封緘片 5 の上端 5a が前記開口部 3 より上部に突出可能に形成してなることを特徴とする自立式包装袋。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は自立式包装袋、さらに詳しくは包装袋に商品を収納した状態で自立できる包装袋に関するものである。

従来、一片が合成樹脂製フィルムで、他片が該フィルムより厚手のシート材によって袋本体が構成されたものとしては、例えば実開昭57-52436号公報所載のものがある。しかしながら該考案は比較的薄手の商品を封入する場合には、袋本体に腰をもたせて展示できる効果があるが、あくまで展示形態としては従来の包装用袋と同様に吊杆やフック杆等によって吊下げ展示して行なうものである。

これに対して従来自立式の包装として一般的に使用されているのは、ビンや罐あるいは包装用箱等であるが、これらのものは自立するが高価で且つ使用後の廃棄処分に困る等の問題があった。

そこで本件出願人はこれらの問題をすべて解消するため、合成樹脂フィルムからなる一片又は該フィルムより厚手のシート材からなる他片のいず

れか一方あるいは両方を延長して袋本体の底部にガゼット部を形成するとともに両片を熱溶着せしめた自立式包装袋を開発した（実願昭58-84170号）。

しかしながらこの自立式包装袋は、あくまで袋を自立可能にすることのみを目的として袋の底部の構造の改良、すなわち商品の収納時に底部が拡がるよう構成することを意図して開発されたもので、この自立式包装袋の開発の時点では袋の上部の構造までは考慮されていなかったのである。

従って上記自立式包装袋の開発によって、比較的厚手の商品の収納が可能となり且つ自立可能な包装用袋の提供が可能になるという当初の目的は一応達成できたものの、たとえば罐入り清涼飲料水、コップ、プラスチック製容器等上下全体が横四方にかなりの幅を有して略均一に膨出したような商品を収納する場合には、袋の上部の構造が考慮されていない故に、その収納が容易ではなく、仮に収納できたとしても上記のごとき商品を収納すると袋本体の開口部が大幅に開口して該開口部の封緘が行なえないという新たな問題が発生した。

さらにあえて開口部の封緘を行なうため、袋本体を商品に比べて十分な大きさに形成したとしても、一旦封緘片によって開口部を封緘すると開口部が完全に閉鎖した状態となるため、広がった底部に対して袋本体の上部が先窄みとなり、よって上記のように上下全体が横四方に略均一に膨出したような商品を収納する場合には、商品の形態に沿った包装を行なうことができず、外観形象が損なわれるという問題点があった。

本考案は上述のような問題点をすべて解決するために、上述のごとき自立式包装袋を前提として特に上記コップ等上下全体が横四方にかなりの幅を有して略均一に膨出したような商品を収納する際、単に袋が自立するのみならず、自立した状態で商品の完全な包装を行なうことを課題として考案されたもので、その目的とするところは、上記のような商品を収納して大幅に開口する開口部を確実に封緘することができ、しかも開口部を封緘した状態においても商品の形態に沿った包装ができ外観形象を著しく良好にしうる全く新規且つ有

用な自立式包装袋を提供するにある。

本考案は上述のような目的を達成するために、袋本体の一片を合成樹脂製フィルムで構成するとともに、他片を該フィルムより厚手のシート材によって構成し、且つ該一片又は他片のいずれか一方或いは両方を延長して袋本体の底部にガゼット部を形成するとともに両片を熱溶着してなる自立式包装袋において、前記袋本体の上端に開口部を設けるとともに、少なくとも該開口部直下の一片に該開口部直下の他片と対面するよう前記フィルムより厚手のシート材からなる補強片を設け、且つ前記一片を袋本体の開口部から他片より延長せしめて封緘片を形成し、しかも該封緘片を開口部より下側に折込んでガゼット部を形成するとともに該封緘片の上端5aが前記開口部3より上部に裸出可能に形成した構成からなるものである。

従ってこのような構成からなる自立式包装袋の袋本体内に上記コップのごとき上下全体が横四方に略均一に膨出した商品を収納すると商品の自重により袋本体底部のガゼット部が広がって幅広な

底部を形成するばかりでなく、袋本体の上部も商品の形態に沿って広がり、よって開口部が大幅に開口することとなるが、袋本体の上端には上述のように開口部より下側に折込んで形成されたガゼット部を有し且つ上端が開口部の上部に裸出した封緘片が形成されてなるため、該封緘片のガゼット部を上側に引き出すと、その封緘片によって上記大幅に開口した開口部が覆われ、その後ガゼット部を引き出した封緘片の上端部を袋本体他片側に接着剤等で接着することによって上記開口部が完全に封緘されることとなる。

本考案は上述のように底部にガゼットを有する自立可能な包装袋において、袋本体の上部の封緘片が開口部より下側に折込み形成されたガゼット部を有し且つ封緘片の上端が開口部の上部に裸出してなるため、上述のコップ等上下全体が横四方に略均一に膨出した商品を収納して袋本体の開口部が大幅に開口するような場合にも、上記封緘片のガゼット部を上側に引き出すことによって大幅に開口する開口部を確実に封緘することができる



という顕著な効果がある。

しかもこの封緘片は、折込まれたガゼットを上側に引き出しながら開口部の封緘を行なうものなるため、上記のように開口部を大幅に開口させた状態のまま封緘を行なうことができ、よって袋本体の上部も底部と同様に幅広な広がり状態を維持でき、その結果上記のごとき商品を収納する場合にもその商品の形態に沿った包装を行なうことができ、外観形象を著しく良好にしようという格別な利点がある。

さらに袋本体の開口部直下のフィルムからなる一片には該フィルムより厚手のシート材からなる補強片を袋本体開口部直下の他片に対面して設けてなるため、上記封緘片で開口部を封緘した状態においても、袋本体の上端部は何ら型崩れすることがなく、その形態を確実に維持でき、従って特に罐入り清涼飲料水等円筒状の商品を収納する場合には、その商品の外形にほぼ完全に沿った包装を行なうことができ、その外観形象が従来の包装用袋では得られない程優れたものとなる格別な利

点がある。

以下本考案の実施態様について図面に示した一実施例に従って説明する。

第 1 図は一実施例としての自立式包装用袋の正面図、第 2 図は第 1 図の A - A 線断面図、第 3 図は第 1 図の B - B 線拡大断面図、第 4 図は第 1 図の C - C 線拡大断面図をそれぞれ示す。

第 1 図乃至第 4 図において 1 は合成樹脂製フィルムからなる一片 a と該フィルムより厚手の合成紙からなる他片 b とがその両側縁 2, 2 で熱溶断シールされることによって構成された袋本体で、該袋本体 1 の開口部 3 直下の一片 a' の内側には前記フィルムより厚手のシート材からなる補強片 4 が前記開口部 3 直下の他片 b' と対面するよう熱溶着されてなる。5 は前記開口部 3 から一片 a を他片 b より延長せしめて形成された封緘片で、その根幹部 5b を補強片 4 の上端 4a に沿って開口部 3 より下側に折込んでガゼット部 6 が形成され、且つそのガゼット部 6 の折返し部 6a は前記補強片 4 の下端 4b より下側に位置するよう形成され、しかも

該ガゼット部 6 の形成した状態において前記封緘片 5 の上端 5a が開口部 3 より上部に裸出してなる。そして上記ガゼット部 6 を形成する封緘片 5 の両側端縁 7、7 は第 3 図のように袋本体 1 の両側縁 2、2 とともに熱溶断シールされてなる。13 は前記封緘片 5 の内側に感圧性の接着剤 14 を介して設けられた離型材で、シリコン樹脂を塗布して処理されてなる。

8 は前記袋本体 1 の底部 9 において該袋本体 1 の一片 a が延長されて W 字状に折曲げることによって形成されたガゼット部で、該一片 a の一端 10 が他片 b の下端縁の外側に熱溶着されて設けられ且つガゼット部 8 を形成する一片 a の両側端縁 11、11 は第 3 図に示すように袋本体 1 の両側縁 2、2 に熱溶断シールされてなる。12 は前記他片 b の下端縁に対面するよう一片 a の下端内側に熱溶着された補強片で、前記フィルムより厚手の合成紙で構成されている。

そして上述のような構成からなる自立式包装袋 16 を使用して、たとえば円筒状の罐入り清涼飲料

水のごとき上下全体が横四方にかなりの幅を有して略均一に膨出したような商品15の収納を行なう場合には、先ず商品15を開口部3から袋本体1内に収納すると、収納された商品15は、その自重によって袋本体1の底部9の折畳まれたガゼット部8を両側端縁11,11を残して押し広げ、それによって包装袋16は自立可能となる。

このとき、収納された商品15が円筒状であるため、すなわち上下全体において横四方に略均一に膨出してなるため、袋本体1の上部も底部9と同様に商品15の形態に沿って広がり、従って開口部3は第5図に示すように大幅に開口することとなるが、袋本体1の上部には開口部3より下側に折曲げ形成されたガゼット部6を有する封緘片5が形成されてなるため、このガゼット部6を上側に引き出すことにより、封緘片5によって上記大幅に開口した開口部3の封緘が可能となる。しかもガゼット部6を引き出して封緘片5により封緘するものなるため、その封緘作業は第5図のように開口部3を大幅に開口させたままの状態で行なう

ことができ、よって袋本体 1 の底部 9 から上部まで第 6 図のように略同幅の状態の商品 15 の形態に沿った包装を行なうことが可能となり、その結果外観形象を著しく良好にするという顕著な効果を得た。

尚、上記実施例においてはガゼット部 6 を形成する封緘片 5 の両側端縁 7, 7 を袋本体 1 の両側縁 2, 2 とともに熱溶断シールせしめてなるが、この封緘片 5 の両側端縁 7, 7 は必ずしも袋本体 1 の両側縁 2, 2 とともに熱溶断シールされる必要はない。

さらに該実施例においては上部の補強片 4 の上端 4a が袋本体 1 の他片 b の上端の高さと一致するよう設けられてなるが、たとえば第 7 図に示すように上端 4a が他片 b の上端よりわずかに下側に位置するように設けてもよい。要は補強片 4 が開口部 3 直下の他片 b' と対面するよう開口部 3 直下の一片 a' の内側に設けられていればよい。

さらに上記実施例において封緘片 5 の内側に設けられている接着剤 14 及び離型材 13 は第 8 図に示

すように袋本体 1 の他片 b の外側に設けられていてもよい。

さらに上記実施例においては袋本体 1 の一片 a の底部に補強片 12 を設けたため、袋本体 1 の商品収納時に袋本体 1 の底部 9 の広がり状態が確実に維持できるという好ましい効果を得たが、この底部の補強片 12 は決して本考案に必須のものではない。

さらにこの補強片 12 や上部の補強片 4、及び袋本体 1 の他片 b の材質も決して該実施例の合成紙に限定されるものではなく、たとえば厚紙にフィルムコーティングを施したようなものであってもよい。要はフィルムより厚手のシート材で構成されていればよいのである。

さらに上記実施例ではフィルムからなる一片 a によってガゼット部 8 を形成してなるが、この他第 9 図 (イ) のように厚手のシート材からなる他片 b によってガゼット部 8 を形成してもよく、また同図 (ロ) のように両片 a, b をガゼット部 8 で熱溶着してもよく、さらには両片 a, b によっ



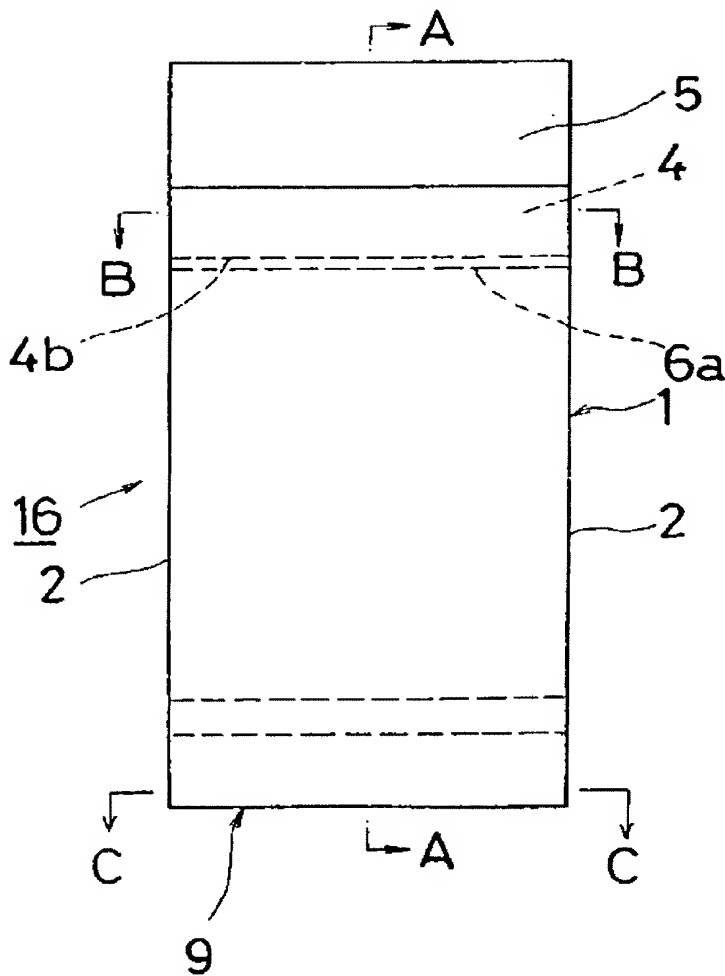
第 9 図は他実施例の要部拡大断面図。

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1 … 袋本体   | 3 … 開口部   |
| 4 … 補強片   | 5 … 封緘片   |
| 6 … ガゼット部 | 8 … ガゼット部 |
| 9 … 底部    |           |

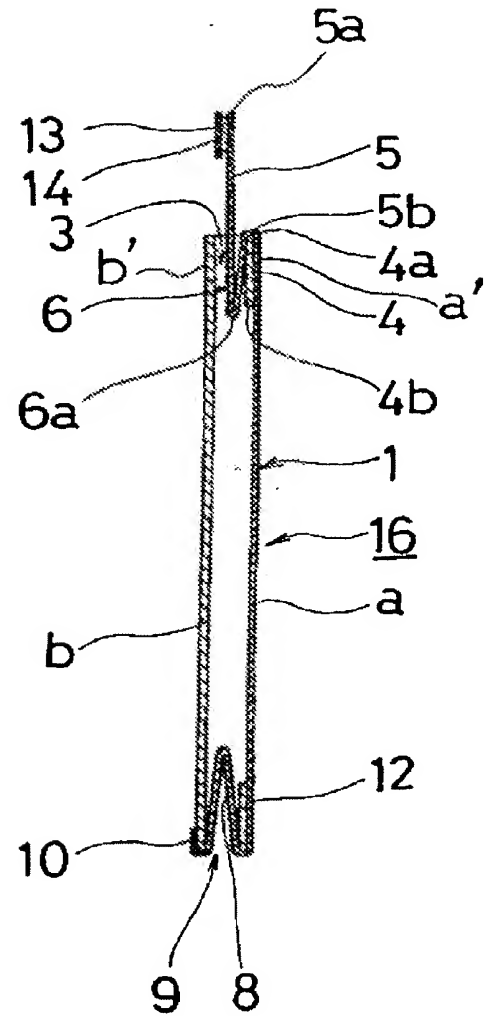
出願人	照栄製袋株式会社
代理人	弁理士 藤本 昇



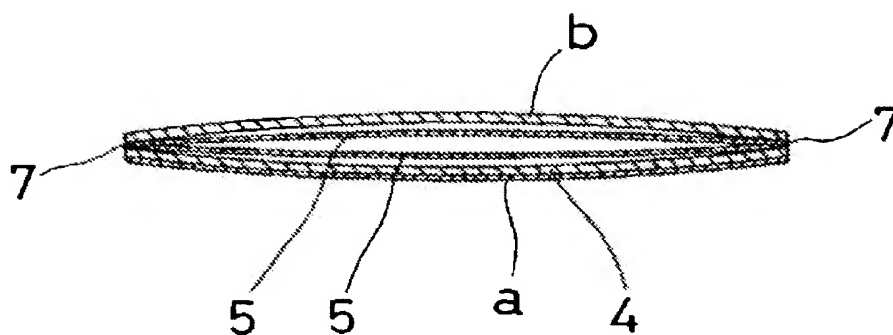
第 1 図



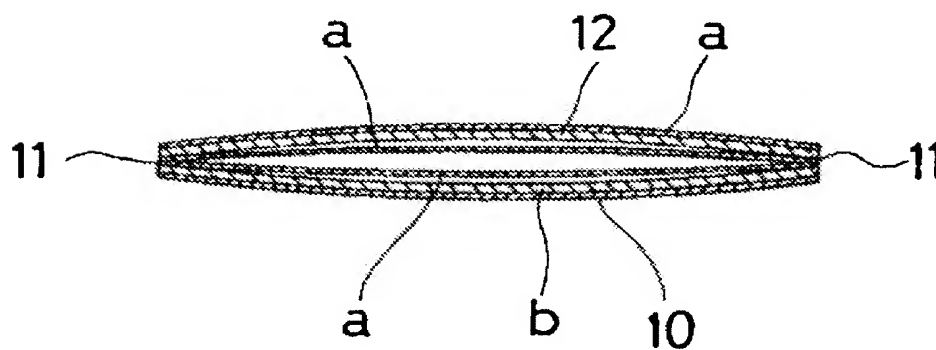
第 2 図



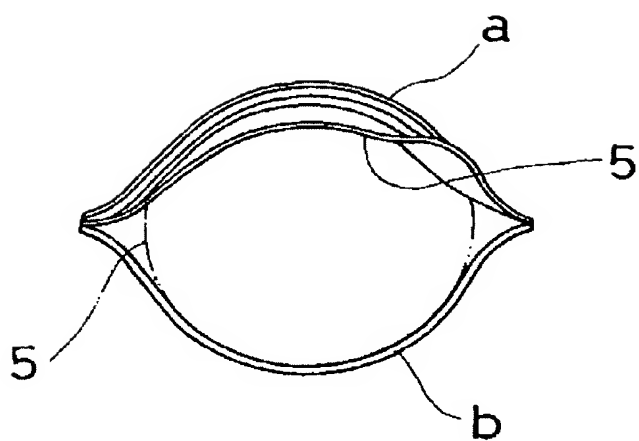
第 3 図



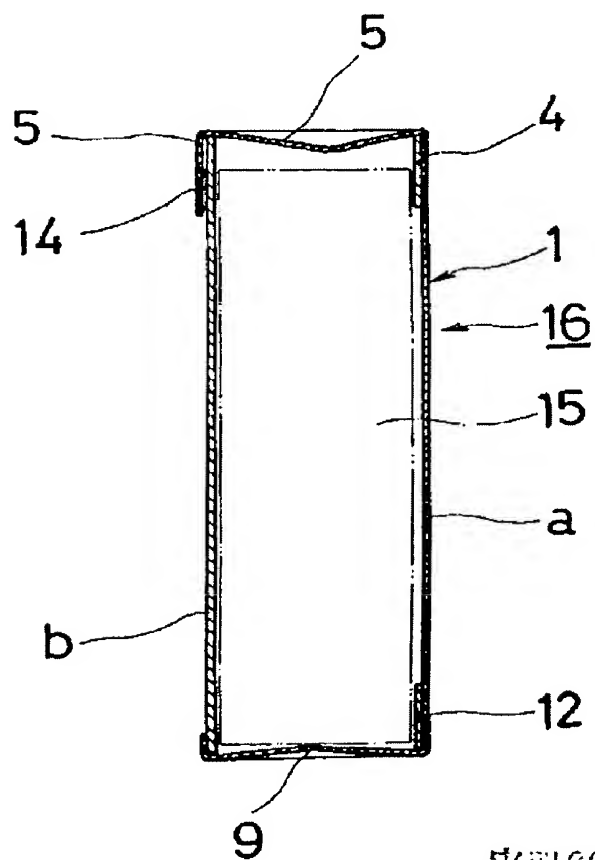
第 4 図



第 5 図



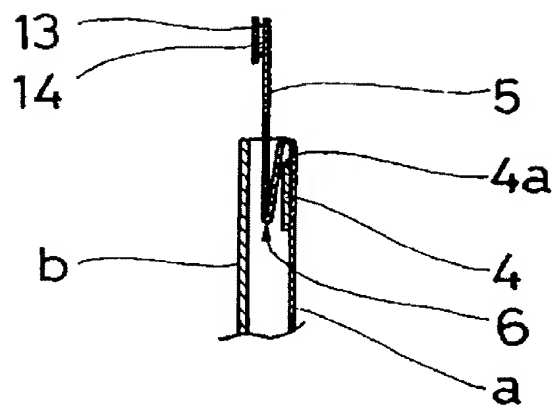
第 6 図



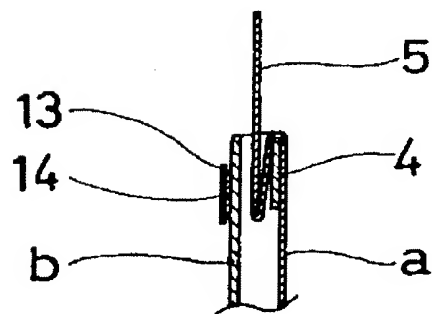
377

実開60-68034

第 7 図



第 8 図



第 9 図

